

宇都宮市立陽南小学校第4・5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

【4年生】

○県や市の平均と比べ、『家で、宿題のほかに自分で考えた学習をしている』が10ポイント以上、「むずかしい問題に出会うとやる気がある」が4ポイント以上、「学習に自分から進んで取り組んでいる」が4ポイント以上上回るなど、学習意欲に対する自己肯定感が高い。

●一方、「家で授業の復習をしている」児童が50%しかおらず、授業内容に対する意識が薄いことがうかがえる。

●「勉強していてふしぎだなあ、なぜだろうと感ずること」は84%と県や市の平均とほぼ同じだが、「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」児童は、県や市の平均より6ポイントも低い。自ら学ぶ意欲に欠けている児童が多いことがおかがわれる。

○「自分はクラスの役に立っている」と感じる児童が59%と、県や市の平均より4ポイント以上上回っている。

○あいさつに関する質問は90%以上が「できている」と考えている。

●「友だちの前で自分の考えや意見を発表すること」を苦手と感じている児童が県や市の平均を5ポイント上回っている。更に、「友だちの話や意見を最後まで聞くこと」を苦手としている児童も5ポイント上回っている。

【5年生】

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と答えた児童は、「はい」「どちらかと言えばはい」を合わせると70%になり、家庭学習の習慣が少しずつ身に付いてきているといえる。

●一方で、「授業の予習に取り組んでいる」児童は46.5%と半数を下回り、「復習に取り組んでいる」児童は51.6%で市や県を10ポイント下回っている。家庭学習については、地域学校園で作成した「家庭学習のヒント集」をもとに時間や内容を指導しているが、教科書に関わる内容だけでなく、昆虫や歴史など興味のあることを調べる学習も勧めている。今後、自主学習の質の向上を学年やブロックで検討していく。 ○「1か月

に5冊以上本を読んでいる」児童は、56.6%で市や県を5ポイント前後上回る。

●一方で、一冊も読まないと答えている児童が市や県の割合より高く5.1%おり、個人差が大きいことがわかる。朝の読書の時間を使って、個別に読書指導をしたり、クラスで図書室を利用する時間を設けたりするなどして、全員が本に親しめるようにしていく。また、学年便りなどを通して家庭の協力を得て、家読を推進していく。

○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」と答えた児童は、「はい」「どちらかと言えばはい」を合わせると80%を超えており、市を5ポイント、県を10ポイント上回っている。また、95%の児童が「友だちの話や意見を最後まで聞くことができる。」と答えている。

○携帯電話やスマートフォンを持っている児童の割合が45.5%と半分近くいて、市の35.5%、県の28.7%を大きく超えている。今後ますます増えることが予想できるので、情報モラルに関する授業や指導を年間計画に位置付けていきたい。

○国語・社会・算数・理科については、95%以上の児童が「授業内容が分かる。」と答えている。

●「次の教科は好きですか。」という問いに対して、国語は61.5%、社会は50.5%、算数は74.8%、理科は86.8%と、教科によって差が大きい。導入を工夫したり、デジタル教科書を有効に活用したりして、児童の興味や関心を高められるようにする。